

市民とデジタルアーカイブの 関係性構築

首都大学東京大学院システムデザイン研究科
博士後期課程3年 田村賢哉



Agenda

- 1 研究背景・研究目的
- 2 既存研究と本発表の位置づけ
- 3 ヒロシマ・アーカイブの市民参加手法
- 4 考察
- 5 今後の展開

1. 研究背景 · 研究目的

研究背景

理論的背景

デジタルアーカイブの学際
化

実践的背景

ICTデバイスの普及

デジタルアーカイブの研究領域の多様化

デジタルアーカイブが接点を持つ領域に様々な可能性がある。(柳,2017)

デジタルアーカイブは、自由度が高いというか明瞭な輪郭を描きにくい。(合庭,2004)

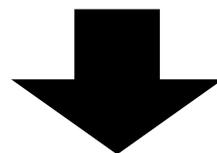
科学としての「デジタルアーカイブ」の体系化

研究目的

社会に及ぼす影響に関する人文科学的研究の存在

師(2005)は、デジタルアーカイブと社会との関わりに関する批判的再検討を論じる。

吉見(2015)は、社会的記憶の構造の変化に伴う知識循環社会においてデジタルアーカイブの社会的貢献の可能性を論じる。



柔軟かつ開かれた構造で、利用者やフォーカスグループによるボトムアップ的なデジタルアーカイブの出現の可能性

デジタルアーカイブを飛躍的に増加させるには、研究者やデジタルアーカイブ関係者だけではなく市民の参加が必要不可欠であり、そのための方法を開発する必要がある。(町, 2017)

理論・技術・実践の研究アプローチ

研究テーマ：『市民参加型デジタルアーカイブの理論と技術』

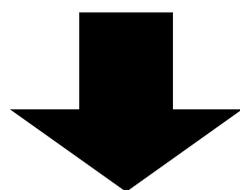
「デジタルアーカイブと社会」の研究領域における“市民参加”を対象とし、市民とデジタルアーカイブの関係性を巡る諸問題を扱う。

2. 既存研究と本発表の位置づけ

市民参加型デジタルアーカイブの位置付け

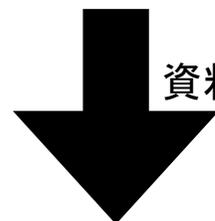
従来のアーカイブズ学における市民参加手法

アーカイブズされたコンテンツの
利用者としてのリテラシーを高める



アーカイブのデジタル化

市民が能動的に関わるデジタルアーカイブの出現



資料の一元化

収集を目的にし
た
アプローチ



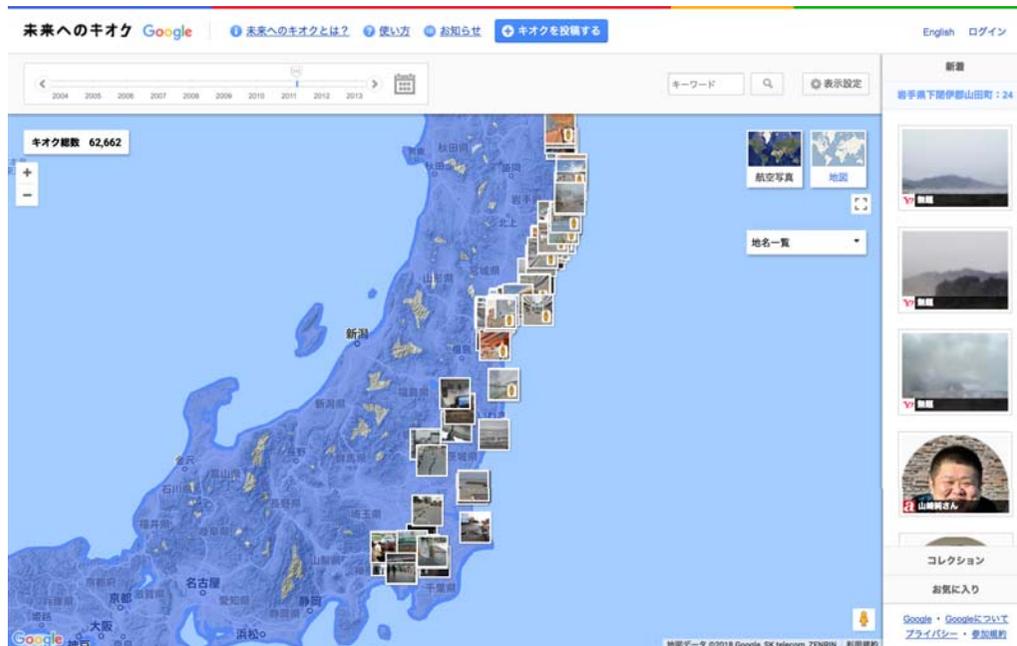
語りの継承

継承を目的にし
た
アプローチ

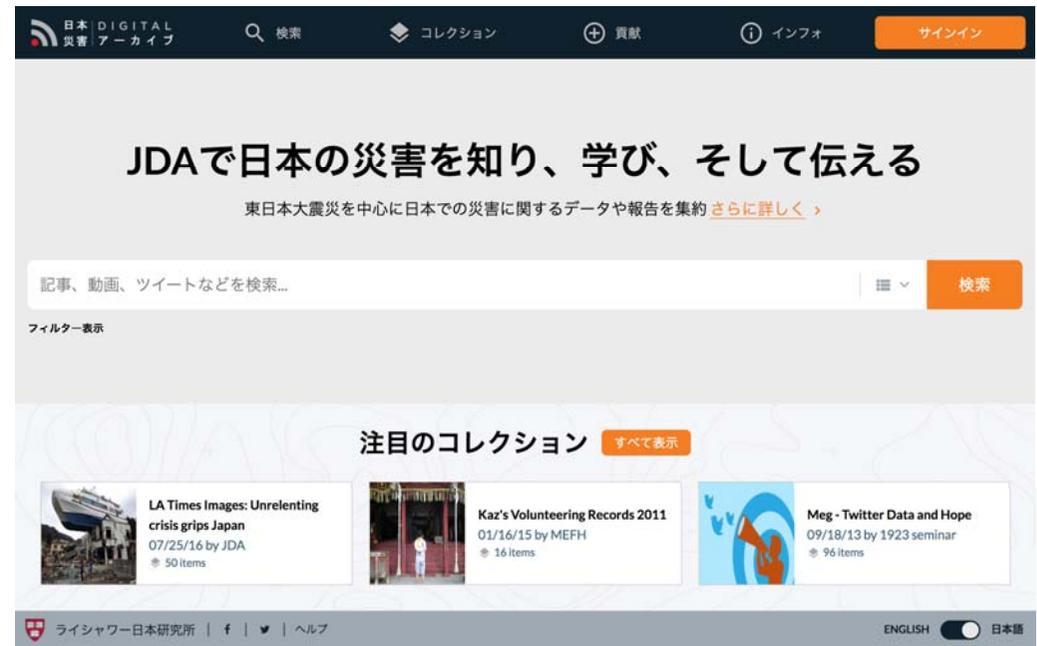
市民とデジタルアーカイブの能動的な関係性を巡る諸問題を
市民参加型デジタルアーカイブの一部として研究

収集を目的にしたアプローチ例

散らばっている無数の資料をネットの力を利用して収集



未来へのキオク（Google社制作）



日本災害DIGITALアーカイブ（ハーバード大学制作）

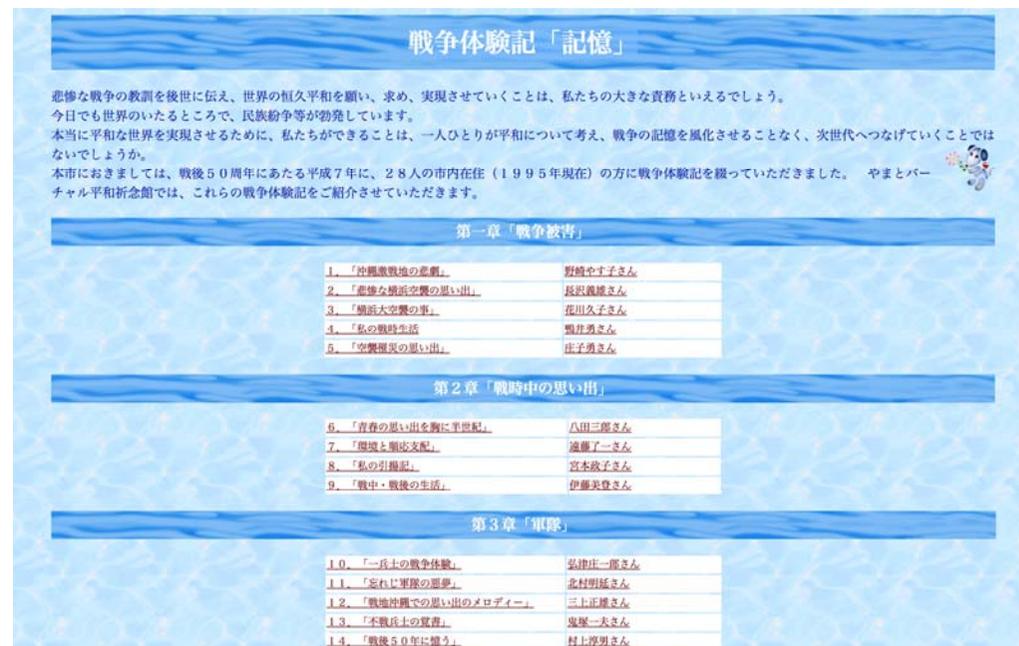
- ・市民によるコンテンツの投稿型
- ・投稿された情報量が多い
- ・情報整理や処理が追いつかない傾向にある

継承を目的にしたアプローチ例

関係者の体験談を聞き取り，非体験者に語り継ぐ



みんなの戦争証言アーカイブス (NPO法人8bitNews)



戦争体験記「記憶」 (大和市)

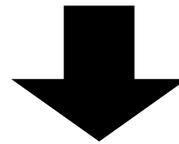
- ・公的な歴史資料ではなく、オーラル・ヒストリー
- ・体験者の証言をもとにしたアーカイブ
- ・コミュニティベースの取り組み

予備的研究の目的

オーラル・ヒストリーのアーカイブの取り組みの課題について

- ▶「第二の当事者」の意識付けの必要性から蛸壺型になる可能性
- ▶地域に内在的な活動は資金不足, 人材不足, 知識不足になりやすい

(坂田,2014)



「継承を目的にしたアプローチ」において
デジタルアーカイブの市民参加の可能性を検討

多元的デジタルアーカイブ「ヒロシマ・アーカイブ」

The screenshot displays the Hiroshima Digital Archive interface. At the top left, there are input fields for "Geocode" and "Search", along with a menu icon. At the top right, there are icons for settings and help. The main area is a map of Hiroshima, Japan, with a large red sun icon in the center. The map is overlaid with a network of blue lines connecting various user-submitted photos and profile pictures. A large white crane icon is visible in the center of the map. In the bottom right corner, there is a form for submitting content:

Your location (displayed on the archive)
Your message (displayed on the archive)

Tweet

3.ヒロシマ・アーカイブの市民参加手法

デジタルアーカイブ制作ワークショップ

年に一度広島女学院にて
デジタルアーカイブ制作ワークショップを開催

被爆証言の収録



被爆証言の文字起し



GISデータ化



アップロード

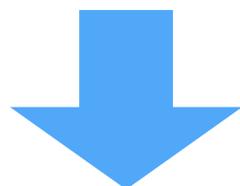


デジタルアーカイブ活用ワークショップの背景

「多くの人達に被爆者の証言を提供できているのか？」

例えば、

高齢者はスマートフォンやPCでの操作に不慣れ
中学生以下は被爆資料を閲覧機会が少ない



情報リテラシーの低い人でも証言を届けるための検討

「デジタルアーカイブの制作」が目的でなく、
「記憶継承」が目的という従来の取り組みの目的へ回帰

デジタルアーカイブ活用ワークショップの流れ

ワークショップ概要

実施日: 2015年6月20日~6月21日, 7月19日

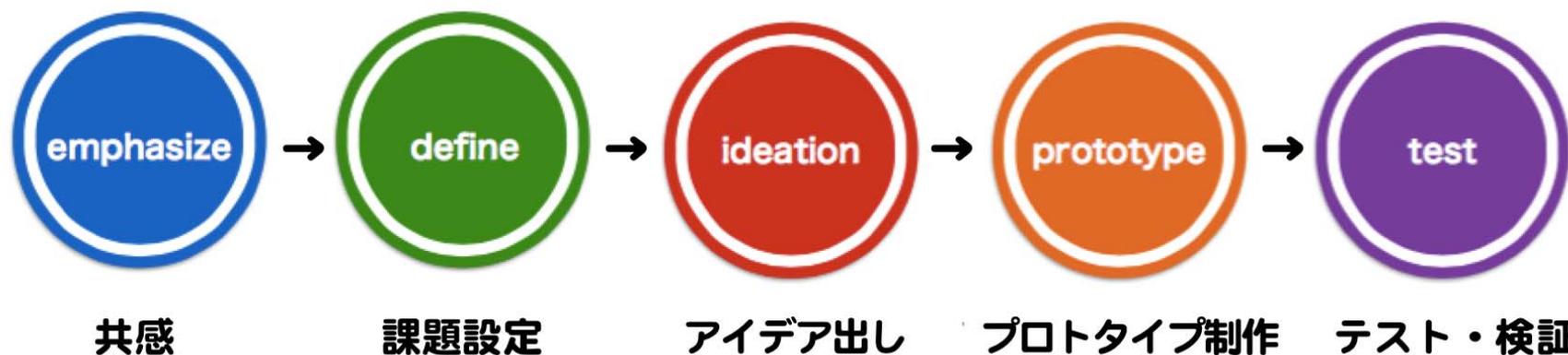
場所: 広島女学院高等学校

手法: デザイン思考メソッドの応用

テーマ:

- ① 広島を訪問する修学旅行生がヒロシマ・アーカイブを利用する方法
- ② 広島を訪問する視覚障害者がヒロシマ・アーカイブを利用する方法

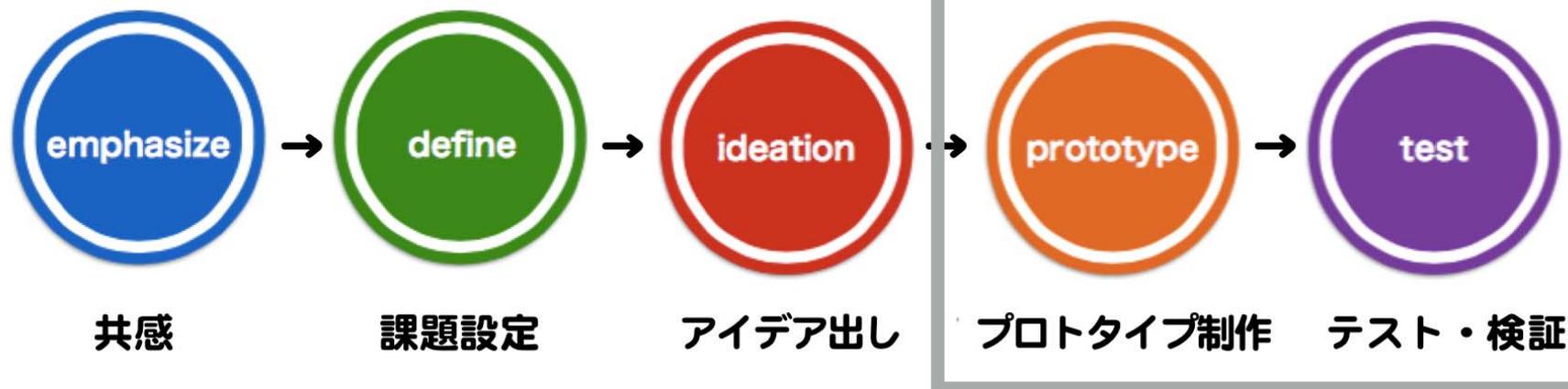
デザイン思考メソッドの導入



ヒロシマ・アーカイブの潜在的なユーザーの把握と解決策を導く

デジタルアーカイブ活用ワークショップの結果

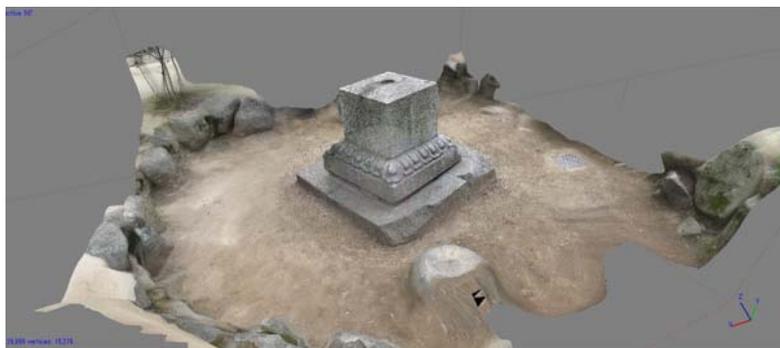
①デザイン思考メソッドの反復



プロトタイプ制作とテスト検証の反復がみられる

②被爆証言の新しい形での外在化手段の獲得

視覚障害者向けヒロシマ・アーカイブ
修学旅行生向けヒロシマ・アーカイブ



他の記憶のコミュニティとの連携の流れ

<1日目：アイデアソン>

10:00-10:30 趣旨説明

10:30-11:00 被爆者講話

11:10-11:40 ヒロシマ・ナガサキ・アーカイブの紹介

11:40-12:00 日本の高校生による活動紹介

12:00-12:30 ショートフィルム「Orizuru/折鶴」の紹介

1:30-1:50 アイデアソンの趣旨説明

1:50-3:20 アイデアソンとアクティビティプランの作成

3:20-3:30 成果発表

<2日目：ボストン市民向けの成果報告会>

17:00-17:15 挨拶

17:15-17:25 日米高校生平和会議の趣旨説明

17:25-17:40 ヒロシマ・ナガサキ・アーカイブの紹介

17:40-18:10 パネルディスカッション

18:25-18:45 日本の高校生による活動紹介

18:45-19:00 アイデアソンの概要説明

19:00-19:40 成果報告（アクションプランの発表）

19:40-19:50 閉会挨拶

2016年9月：日米高校生平和会議

ヒロシマ・アーカイブ

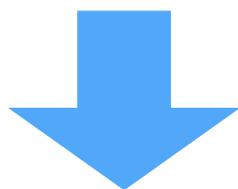
ナガサキ・アーカイブ

東京 五輪アーカイブ

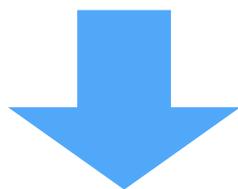
参加した記憶のコミュニティ

他の記憶のコミュニティとの連携の背景

ヒロシマ・アーカイブ, ナカザキ・アーカイブ, 『東京五輪アーカイブ』



姉妹アーカイブは「記憶継承」という目的を一致する



交流ワークショップや日米高校生平和会議を開催

他の記憶のコミュニティとの連携の流れ

日米高校生平和会議の概要

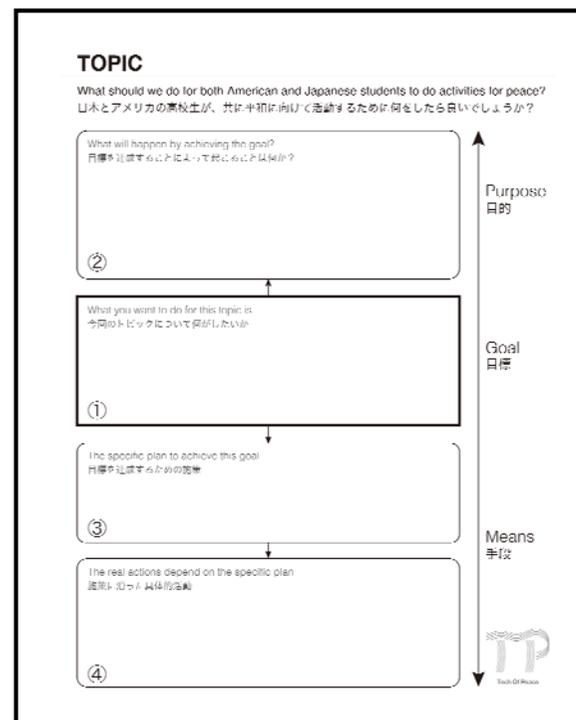
日時：2017年9月18日：ハーバード大学サイエンスセンター

2017年9月19日：ボストン公共図書館

参加者：合計 52 名

日本から7名(広島4名, 東京2名, 長崎1名)の高校生

アメリカから45名の高校生

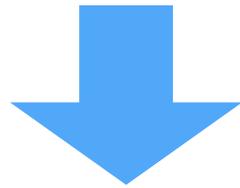


他の記憶のコミュニティとの連携の結果

「記憶のコミュニティ」の違い

ヒロシマ・アーカイブ、東京五輪アーカイブ：主に高校生が主体

ナカザキ・アーカイブ：高校生1万人署名実行委員会OBを中心とした大人が主体



オハマ大統領の広島訪問を機に、2つの記憶のコミュニティにて
同時多発的にアメリカでの活動展開の提案

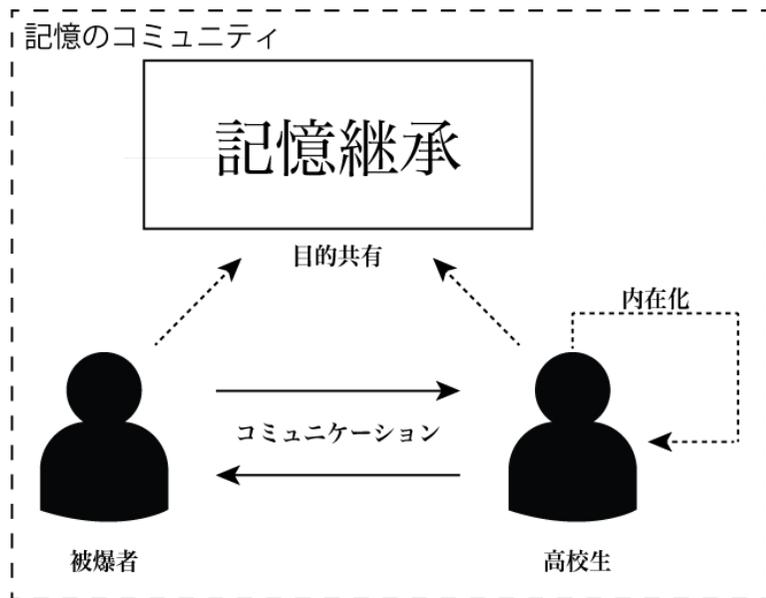
「次世代への継承」という点で目的感と技術基盤が一致することで

異なるコミュニティ間での連携が可能

4.考察

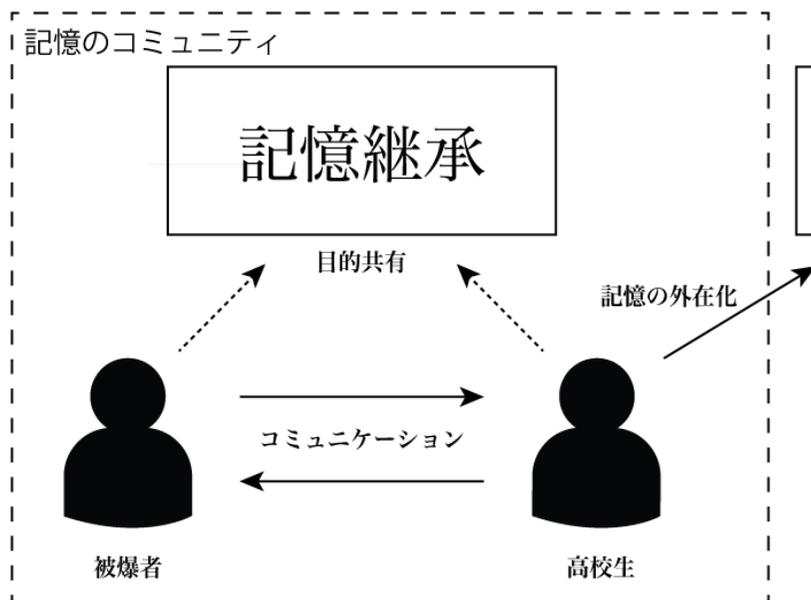
継承を目的にした参加型デジタルアーカイブズ

Before



実践：実態のあるもの
破線：実態のないもの

After

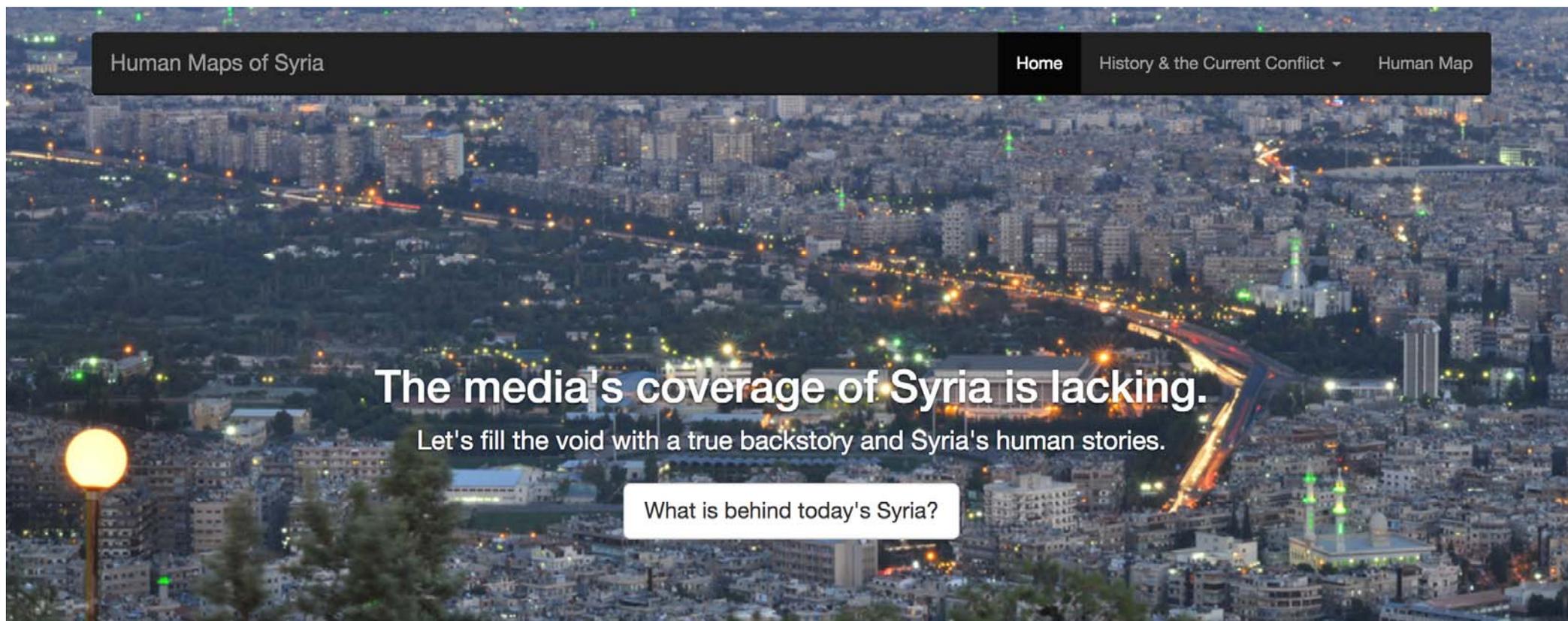


参加型デジタルアーカイブズ
[多元的デジタルアーカイブズ + 記憶のコミュニティの拡大]



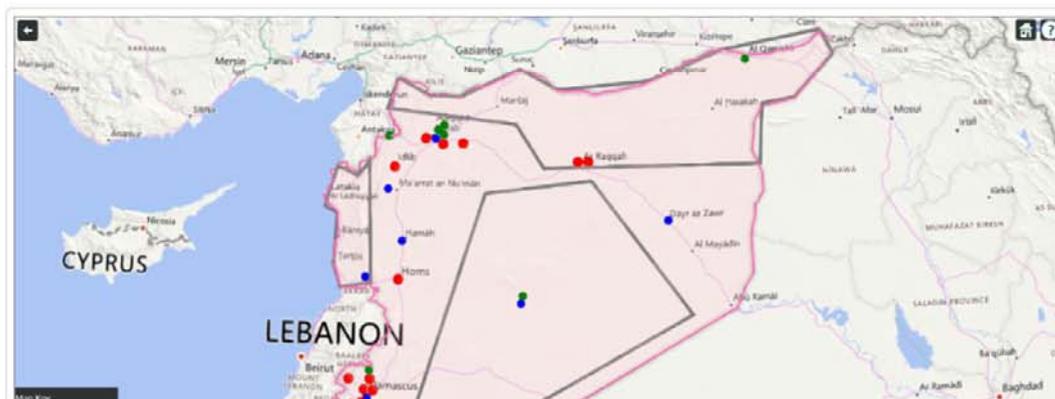
媒介物の副次的作用
[アクセスの多様性 + ネットワーク外部性]

媒介物の副次的作用による効果



There is a dearth of knowledge on what is happening today in Syria.

Although the United States is one of the most influential world powers involved in Syria today, knowledge of any background of the conflict or what is truly happening to the Syrian people is gravely lacking. In Lebanon, the Syrian Civil War has always been a polarizing subject due to the tumultuous history between the two nations and refugee influx. In the interest of understanding leading to a future long-standing peace, this site was created to show the "side" of Syria scarcely mentioned in media and conversations today: the human side. Even as the main purpose of the site is to show "the human side," that knowledge



5.まとめと研究スケジュール

本日の発表まとめ

参加型デジタルアーカイブズにおける記憶継承

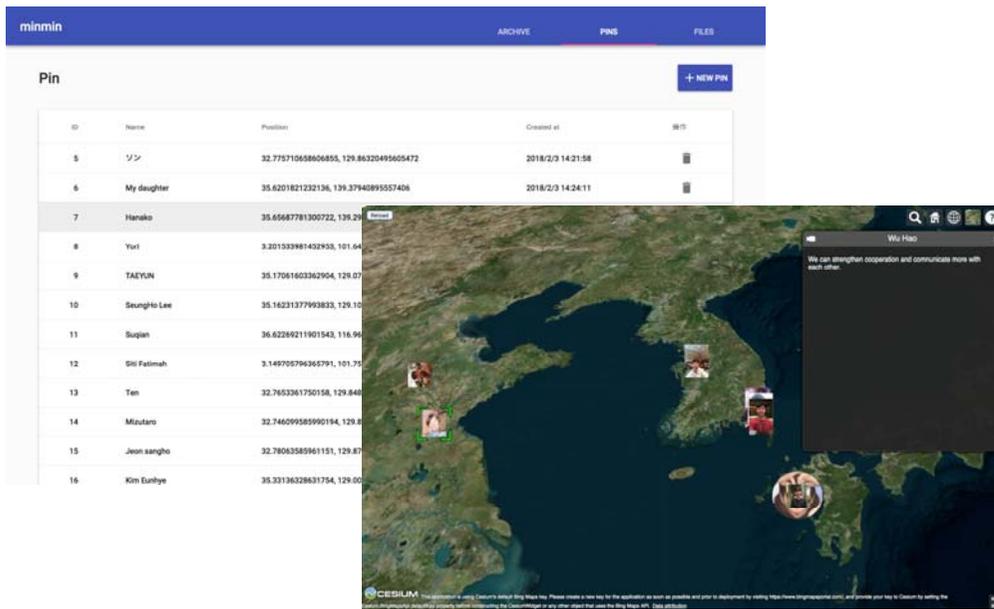
- ・ 従来の証言収集も、記憶継承の目的は共有されていた
- ・ 従来の証言収集では、記憶は継承者の価値観として内在化
- ・ 参加型デジタルアーカイブズは、証言についての記憶を外在化
- ・ 外在化により周囲にも「目的感」として影響し、記憶のコミュニティの拡大

参加型デジタルアーカイブにおける媒介物の副次的作用

- ・ 多元的デジタルアーカイブの活用により「アクセスの多様性」を作り出す
- ・ 「記憶のコミュニティ」のネットワーク化により目的感と技術基盤を共有
- ・ 目的感と技術基盤の共有により、新しい「記憶のコミュニティ」を創発する
- ・ 従来の利用者と提供者という関係でのデジタルアーカイブでは見られない現象

市民参加型デジタルアーカイブにおける実践

専門的知識のない市民による能動的に 制作可能なデジタルアーカイブの検証



コンテンツ投稿フォームの開発



ワークショップの実施

こうした実践的なワークショップを通して、
市民参加型デジタルアーカイブの理論や技術に還元する

異なるユーザーで多元的保存法の導入の検証



自治体と市民参加
南アルプス市



NPOと市民参加
ノーモア被爆者



アーキビストの活用
米・ウィルミントン大学



学校教育での活用
国連国際高校